

## 青木昆陽の研究が飢饉を救う

### ソロバンより学問の人

元禄11年(1698)魚屋の一人息子として生まれる。江戸時代中期の蘭学者、名は文蔵。父は病弱であった、母は町医者娘だった。その母の血を引いたのか、ソロバンより学問の人。関東で初めてサツマイモの栽培に成功した。

- \*魚屋を継ぐべきところだが、22歳の時学問がしたいと両親に打ち明ける --- 店はどうするのだ --- それでも都へ行って学問がしたい
- \*享保4年(1719)京都へ --- 当時の京都は学術都市だった --- 伊藤東涯(いとうとうがい)の古義塾へ入る
- \*伊藤東涯の考え方は一人に役立つものが学問、でなければ道楽だ
- \*2年後に江戸は大火に、父は病に --- 看病に当たる --- かたわらで塾を開き生計をたてる --- しかし、父は病死・母もあとを追う ---
- \*これまでの学問は両親の命さえ救えなかった。6年間喪に服す。このころ、江戸に健康ブームが起こる(本草学という)

### 大岡越前の推薦で…

- \*この時大岡越前より呼び出しがかかり、お前の学問を世の中に役立てよ!!  
というのも、大家さんが越前の与力を務めていて、大岡に推挙したのだ。
- \*享保17年(1732)大飢饉に --- 将軍吉宗は江戸の米を買い上げて西日本へ送る --- 江戸の米が値上がり --- 社会不安に --- 食料危機打開のため昆陽を呼び出す
- \*そこで、飢饉に何か役立つことはないか本草学を調べ上げる --- 江戸では未知だったサツマイモにいきつく。
- \*享保18年(1733)サツマイモについて調べ本にまとめる --- 大岡越前に見せる --- 越前から将軍吉宗に報告 --- ためしに作れ・サツマイモ御用掛となる
- \*早速研究に、まず種イモを取り寄せる --- 栽培方法・栽培時期を研究 --- しかし、栽培する場所が確保できない
- \*というのも、昆陽よりも位が上の新井白石がサツマイモには毒があるとして反対したのだ
- \*そのため農家の協力が得られず、土地を貸してもらえなかった

### またしても大岡越前に助けられる

- \*窮地を救ったのは大岡越前、小石川・幕張・九十九里の御用地でサツマイモつくりができることに

\*しかし、放置した種イモは寒さのために腐ってしまう。途方にくれるが、あきらめずに選別すると 1/3 ほどは大丈夫だった

\*種イモを植えた --- 3週間後にツルを伸ばす --- これを畑に植える --- 117日間見守った --- 享保 20 年 11 月収穫に成功した --- 将軍吉宗に報告 --- 関東一円で栽培 --- 誰もが栽培できるようにと、イモの保管・植え付けの時期などをまとめた今で言う栽培マニュアルを作成した

### 大飢饉を救ったサツマイモ

\*昆陽は明和 6 年(1769)に亡くなったが、13 年後の天明の大飢饉ではサツマイモが多くの人を救った

\*天明 2 年(1782)から天明 8 年(1788)にかけて発生した天明の大飢饉、さらに天明 3 年(1783)の浅間山の大噴火 --- この時の窮状を救ったのがサツマイモだった

\*ある意味、両親への恩返しができた

\*41 歳で書物掛に登用される --- 医学の前野良沢を育てる

\*69 歳で書物奉行に --- 学問一筋の人だった